

西川ひとし

県政レポート VOL.26



2021年（令和3年）11月発行

奈良県議会議員（葛城市選挙区）

会派・自民党奈良

9月定例議会

こんにちはー西川ひとしです。秋はいつた
いどこへいったのかと思うくらい冷え込んでま
いりました。気候も例年とは違つケースが笛
てきていますので、体調管理には気を配つて
ください。また、新型コロナウイルス感染者の
数も減ってきているとはいえ、油断はできませ
ん。引き続き感染防止に努めることが大切で
すので、マスク着用を続けていただきたいと思います。
ついでに、今回の県政報告26号は9月定
例会の内容についてご報告させていただきますま
す。

飲食クーポンで ワクチン接種を促進

9月定例会は10月21日に閉会し、85
億円の一般会計補正予算などを含む21件の
議案を承認しました。補正予算のほとんどは
新型コロナウイルス感染症対策になってい
て、ワクチンの接種強化に28億円を計上し
ています。また、飲食クーポンによる新型コ
ロナワクチン接種促進事業を新たに設けまし

「コロナ対策補正予算の内容（別表①）」

事業名	金額（千円）
新型コロナウイルス接種強化事業	2,870,000
飲食クーポンによる新型コロナウイルス接種促進事業	750,000
PCR検査民間委託事業	124,000
PCR検査公費負担	341,000
感染症医療費公費負担	371,000
感染症患者移送事業	3,300
新型コロナウイルス感染症医療体制整備事業	4,620
新型コロナウイルス感染症医療従事者特殊勤務手当補助事業	468,000
生活福祉資金貸付原資造成補助金	2,480,000
新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金	65,000
飲食店等営業時間短縮協力金市町村支援事業	247,000

た。これはワクチン接種済みの県民に、感染
防止対策を認証した飲食店で利用できる
3000円のクーポン券を20万人に配布す
るものです。これに関わる予算は7億5千万
円となっています。そのほか、生活福祉資金
や新型コロナウイルス感染による生活困窮者
の支援、飲食店の時短営業協力金などの予算
を計上しています。新型コロナウイルス感染
症対策の予算は別表①の通りです。

一方、代表質問では同じ会派の中村昭議員
が「公共交通の今後の維持・充実のあり方」
について質問していますので、知事の答弁を
紹介したいと思います。荒井正吾知事は「地
域公共交通は県民と観光客の移動ニーズを支
える必要不可欠なサービスであり、公共交通
の今後の維持・充実が重要な課題として、こ
れまで、ノンステップバスの導入や鉄道駅のバ
リアフリー化などを支援してきた」とし、「人
口減少、高齢化によつて鉄道事業者は経営的
に厳しくなっている。事業者にまかせきりでは
公共交通の維持が難しい」という考え明らか
にしました。そのうえで「地域が公共交通の

運営に参画し、地域で支える時代がきた」と
して、地域公共交通基本基本計画の見直しに
も着手する考えを示しました。

一般質問では乾浩之議員が「限られた土地
の有効活用」について知事に質問をしていま
すので、一部ご紹介いたします。荒井知事は「奈
良が大阪のベッドタウンとして発展してきたこ
とから、土地の用途の8割は住宅系となつて
おり、全国一の比率」と述べました。県の生産
額をあげる商業、工業の利用が極端に少ない
ことから、「都市、農地、森林などの各分野の
有識者で奈良県の土地利用に関する懇談会を
設けた」ことを明らかにしました。そのうえで、
土地は所有から利用へという流れになつてい
ることを踏まえ、「農地をプロジェクト用地とす
る」ことを上げました。農地面積は減りますが、
「特定農業振興ゾーン」の取り組みにより、農
産物の出荷額は従前を上回るように工夫した
い」と述べるなど、奈良県独自の土地利用を
つくっていくという強い決意を示されました。

12月議会で一般質問を行います。
地域の課題を取り上げ、地域の発
展につながるよう取り組みますので
よろしくお願いいたします。



県政HOTニュース

紀伊半島の3県連携 公共事業で木材活用

「第15回紀伊半島三県議会交流会」が7月21日（水）、三重県多気郡大台町菌993の「奥伊勢フォレストピア」で開催され、奈良県からは私と同じ会派所属で議長の荻田義雄議員をはじめ7人の県議会議員が参加しました。三県、和歌山県からもそれぞれ7人の議員が参加し、合計21人にて「紀伊半島の豊かな自然をいかしたワーケーションに関する情報発信」「紀伊半島アンカールートの整備促進」「公共事業における木材の活用」など3つのテーマについて意見を交わし連携していくことで合意しました。

▽ワーケーションの推進について

紀伊半島三県ならではの豊かな自然を生かしたワーケーションに関する情報発信などの取組状況について報告がなされました。また、中山間地域における持続可能なワーケーションの取組み、受入環境整備や企業と連携したビジネス創出に向けた課題等をどのように解決していくかについて意見が出されました。ワーケーションの取組みを進めるにあたっての課題や知見等に関する情報共有を図り、受け入れ環境の整備に要する補助金等の支援制度の拡充について、三県議会が連携して早急に国に要望していくことで合意しました。

▽紀伊半島アンカールートの整備促進による国土強靱化及び地方創生の推進について

道路整備に必要な予算の確保や事業の推進についての国への要望の取組状況、近畿自動車



道紀勢線、国道168号・169号をはじめとした幹線道路の機能強化・ミッシングリンクの解消に向けた整備促進の取組、用地買収の取組などについて意見が出されました。

今後、紀伊半島の観光振興や地域活性化、防災対策などの取組を進めていくうえで欠かせない「紀伊半島アンカールート」の早期整備に向け、東日本大震災及び紀伊半島大水害から10年を迎える今、三県議会が連携して国に要望していくことで合意しました。

▽公共事業における木材の活用について

公共建築物などの木材利用における三県の現状や課題、利用基準や県産材利用促進に関する木造・木質化の取組等について意見が出されました。今後、地域の実情に応じた木材の公共利用や公共建築物等への木材利用の促進をさらに各県執行部に働きかけていくため、今後も三県議会で、紀伊半島三県の観光に資する道路の景観向上と県産材産業振興の観点から、木製ガードレールの採用等について、施工事例や課題等の情報共有を図り、意見交換していくとともに、輸入材の制限や人材育成について、国に対して要望していくことで合意しました。

ひとしのひとりごと

○…コロナ感染者の数もようやく減ってきています。ワクチン接種の効果もあったことと思いますが、突然変異による新株が出たり、あるいはワクチンを接種しても感染するブレークスルー感染もあつたりと、なお予断は許さない状況です。街ではマスクをしない方々も増えてきていますが、再び感染が拡大するか予測が付きません。ワクチンを接種しても、マスク着用および手指の消毒は日ごろから徹底すべき事柄になっています。

○…一方、各方面から緊急事態宣言すべきとの声にも負けず、『荒井大仏』とも揶揄されながら我が道を貫き通したのが荒井知事です。賛否両論はあるかと思いますが、緊急事態宣言をしなかったという結果だけみれば素晴らしい成果です。大阪のベッドタウンになっているということを踏まえて、緊急事態宣言は効果がないという先見性に賛辞を贈りたいところです。マスコミは何もしなかった

知事の先見性に感服

奈良県のことを面白おかしく記事にしていたことが、結果が大事です。ある意味、新しい奈良モデルを示していただきたきました。

○…話しは変わって、あわただしいうちに衆議院選挙も終了いたしました。大阪では維新の勢いが増し、立民は影が薄くなり、そしてわが自民党もほろ苦い結果となりました。時代は刻々と変化し、それに対応できる見識と様々な事象に対応できる能力が政治家には求められますが、「口だけでは誰もついてこない」という証左かもしれません。

○…改革といえば何か耳障りがよく、世の中が変わるのではないかという期待をもたれるかもしれませんが、でも改革には痛みが伴うことも忘れてはいけません。その痛みもしっかり伝えることが大事ですし、マスコミも報道すべきではないでしょうか。



県政に関する疑問や質問は、西川ひとしにお寄せください。

〒639-2141 葛城市弁之庄58-2
TEL:0745-69-1234 FAX:0745-69-7891